

密教の西
藏進入

喇嘛教の
發生

發思巴の
出現

紅教の發
生

發揮され、空海に依て日本に入り、遂に眞言宗の一派を生せしめたり。

又一方には、世親の弟子サンガダーサに依て、印度の北方迦溼彌羅カシミアに入り、是より
ブダパーリタに依て、始めて西藏に傳はりしもの、即ち是れ西曆四百七年にて、支那
東晋の安帝義熙三年丁未の年とす。

密教の西藏に入りて以來、幾多の學者は、印度より聘せられ、數多の經典は譯出せ
られて、頻りに國內に宣布せらるゝに至れり。是より年を経るに従ひ、高僧輩出し
て、西藏の國風に鑑み、多少の修正を爲し、茲に喇嘛教を成形して、以て西藏の古宗教
(支那の道士教に似て)を排斥し盡したり。爾來幾多の盛衰變遷を経て、元の初に
至り、發思巴フテスバなる者其の國に生れ、聰明絶倫、七歳にして經を誦し法を演じ、十五にし
て遍く三藏に通じ、佛教の眞理を究む。國人以て聖人と爲す。元の世祖(千二百年)
(代)深く之を尊信し、遂に國師と爲し、天下の教門を統べしめたり。此の發思巴の
建立したる宗派を喇嘛紅教と稱す。而して此喇嘛紅教は、元の國教と爲り(發思巴は又詔
すを受け元の國字を制定)歴代の帝王之を信奉し、一時隆盛を極めしも、元末に至り
て、流弊百出遂に吞刀吐火の幻術を弄するに及び、漸く其の改正を促すの時勢に逼